

学校の背景・教育理念

1. 学校の背景

本校は、愛媛県北東部に位置し、平成 17 年越智郡 11 町村、芸予諸島の南半分の島嶼部と合併し、人口 15 万人規模の愛媛県今治市にある唯一の医師会立看護専門学校である。高等課程准看護科及び専門課程第一看護学科(3年課程全日制)、専門課程第二看護学科(2年課程全日制)を併設しており、地域住民の健康を守る看護師等の養成を担っている。

今治市の人口減少化は緩やかに進行し、就労人口の減少に伴い医療・介護の分野等の求人が追い付いていない現状である。平成 28 年度より今治市では「～豊かな地域社会を次世代につなげるために～」をスローガンに「健やかに安心して過ごせるまちづくり」の事業展開を行っている。それに伴い、本校もこれから 10 年 20 年先の医療状況・地域特性と課題を踏まえ、社会や地域の要望に応える看護職の育成、そして長期にわたって就労し地域に貢献できる人材育成を目指し設置されている。

この設置主体の意図を生かし、以下の教育理念、目的、目標を設定した。

2. 教育理念

人間は、全人的な存在である。また地域の中では、生活者としての役割を持っている。その役割を果たすことができるよう、胎生期から老年期まで各世代の健康課題に応じた支援が必要である。

看護は、多様化する社会に応じて、顕在的・潜在的な健康課題に対する対象者への基礎的実践能力が求められている。そのため、地域医療に貢献する保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携しながら協働できる能力を養う。

このような地域社会での看護の責任を果たすため、看護専門職業人として、想像力・探求心をもった看護実践者を育成する。

3. 教育目的

専門的知識・技術を教授するとともに、健全で、多様な価値観を有する人間の理解を深め教育を行い、知識と実践を結びつけ、地域社会に貢献できる人材を育成できる。

4. 教育目標

専門課程第一看護学科

- 1) 人がもつ多様な価値観・自己について理解し、人間関係の形成ができる。
- 2) 看護師としての責任を自覚し倫理観・看護観を持ち、自ら行動することができる。
- 3) 対象者を生活全体でとらえ地域で暮らす生活者として支援することができる。
- 4) 看護の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を養うことができる。
- 5) 社会の変化をとらえ、学び続ける意欲を身につけることができる。

専門課程第二看護学科

- 1) 人間を統合された存在として幅広くとらえ、人々の健康と生活を自然・社会・文化的環境の観点から理解する能力を養う。
- 2) 准看護師教育で習得した基礎知識・技術・態度を更に深め、人々の健康上の課題に対応するため科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 3) 対象となる人を地域で暮らす生活者としてとらえ、生活全体を支援することができる。
- 4) 看護の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を養うことができる。
- 5) 社会の変化に応じた行動ができるよう、継続的に学習ができる。
- 6) 豊かな感性を持つ調和の取れた社会人に成長できる。

高等課程准看護科

- 1) 人間を生活する人として、身体的・精神的・社会的側面から把握する基礎的能力を養う。
- 2) 対象者を安楽に配慮し、療養上の世話または診療の補助を安全に実施することができる基礎的能力を養う。
- 3) 生命の尊重と個々の人格を尊重し、倫理に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
- 4) 医療の動向および看護の役割を理解し、保健医療福祉のチームの一員として地域に貢献できる能力を養う。
- 5) 専門職業人としての意識を持ち、自己研鑽に努める能力を養う。

5. 目標分析による教育内容の抽出

▲ アドミッションポリシー(求める学生像)

専門課程第一看護学科

- 1) 社会的マナー、ルールを守ることができる人。
- 2) 自己の長所・短所を理解し、成長することができる人。
- 3) 相手の立場を考え、思いやりをもって接し、協力をすることができる人。
- 4) 探求心を持ち、自身で考え、自分の言葉で他者に伝え、行動できる人。
- 5) 社会(日本・世界)情勢・保健・医療・福祉に関心がある人。
- 6) 地域愛(今治市/東予地区/愛媛県)があり、貢献したい人。

専門課程第二看護学科

- 1) 相手に関心があり、相手の立場と思いが考えられる人。
- 2) 准看護師としての自覚を持ち、さらなる努力と成長ができる人。
- 3) 自己の短所を理解し、長所に変えていく前向きな人。
- 4) 社会情勢に興味を持ち、医療福祉関連の諸問題について考えることができる人。
- 5) 今治市を含め東予地域を含む愛媛県に貢献したいと思う人。

高等課程准看護科

- 1) 准看護師として地域に貢献したいと考える人
- 2) 人間の暮らし・健康・社会に関心がある人
- 3) 社会のマナー・ルールを守り責任ある行動がとれる人

▲ カリキュラムポリシー

専門課程第一看護学科

- 1) 1年次では、前期に基礎分野・専門基礎分野の人体の構造と機能・専門分野の看護技術、特に生活援助を中心に展開する。後期では、基礎看護学実習Ⅰを行い、座学での学びと実習の体験を結び付けて生活者を理解するための方法や生活者に合わせた援助の工夫を理解する。そして、「地域を知る学習」「地域を知る実習」を通し、地域の特徴を学び、その地域で暮らしている生活者の理解を深める。
- 2) 2年次では、各領域の健康な対象・健康障害をもつ対象とその家族の看護を学習する。対象に応じた良質な看護ができる為には、アセスメント能力、臨床判断能力が必要である。したがって、看護の思考過程である看護過程を基本構造から学ぶ。そして、各領域の看護の特徴について事例演習を通して理解を深め、思考過程の修得を目指す。また、情報の管理・処理の基本、看護研究の基本的知識を学び、3年次へつなげる。
- 3) 3年次では、各領域の看護学実習で様々な看護実践・生活者との関わりを通して、既習の知識・技術をつなげ統合できるように進めていく。また国際看護や災害看護、統合技術演習を通して、学問を発展できるように設定している。「多職種連携と実際」では多職種と関わり、事例検討を通して必要な看護支援が何であるかを明確にし、臨地実習での学びや看護師の役割について包括的な理解を深めるようにする。
- 4) 情報通信技術(ICT)を活用するための学習を設定しているが、ICT環境を整え、情報リテラシーを基盤とした情報処理・管理について様々な分野で導入し、体験を通して理解を深められるようにしている。
- 5) 学修評価については、授業態度、出席状況、筆記試験・レポートによる評価、技術評価を行う。実習については各領域の実習評価表により評価する。また、看護技術の修得については「看護技術経験録」(別紙参照 P187-2 から 4)を基に、学内・各実習終了後・卒業前に自己評価を行う。

専門課程第二看護学科

- 1) 1年次では、前期として基礎分野を通して人間理解を深め、専門基礎分野の科目を通して主要疾患について学び、各科目を関連付けて理解する。専門分野は看護の基礎的内容と各領域における看護の概論的知識を学び、臨床看護技術演習につなげる。特に『地域・在宅看護概論』では広く地域を知り、生活者の特徴を学ぶ。
後期では専門基礎分野でさらに多くの疾患と看護について系統的に学び、准看護師として

既習の知識をさらに深める。特に「暮らしを支える看護技術」では地域療養を支える制度を学習し、「地域・在宅看護の実際」で在宅療養を支える看護の実際につなげる。さらに、「多職種協働と看護」の学習につなげていく。

1年次に学んだ知識と技術と態度をもとに、「基礎看護学実習」で実践の形で学習する。

- 2) 2年次では、前期に基礎分野を通してさらに人間について理解を深め、専門分野で「災害看護」「医療安全」「看護研究」を学び、看護の実践をしていく基礎的知識を習得する。実習においては「地域・在宅看護論実習」で地域の特徴と看護の実践について学びを深める。さらに「成人・老年看護学実習」や「母性看護学実習」の実習につなげていく。

後期では前期の実習をふまえて各対象の領域別実習を通して、看護とは何か看護観を育てる実習内容を実践していく。また、「多職種協働演習」では対象者と家族のアセスメントと実践できる学習をする。

高等課程准看護科

教育目標やディプロマポリシーを達成するために必要な教育課程の編成や教育科目の内容および方法について、基本的な考え方を以下のように定める。

- 1) 本課程のカリキュラムデザインは、学年の進行とともに系統かつ発展的に学ぶことができるよう科目を配置する。
- 2) 基礎科目には、すべての学習の基盤、コミュニケーション能力を高められるよう国語表現を置く。また、社会のニーズに柔軟に対応できる能力を養うため、情報科学・公共倫理を配置する。
- 3) 専門基礎科目には、人体の構造・機能を理解し、健康障害や治療に関する基礎知識を養う科目を配置する。
- 4) 専門科目には、看護・環境・人間の概念を学び、看護を必要とするものの見方や考えを学ぶ看護概論から学び、すべての看護の基礎となる基礎看護技術を置く。また、対象の成長発達・ライフサイクルを考慮して健康レベル・治療などを系統だて学べるよう配置する。
- 5) 臨地実習では、看護の実践を目指し、より深い専門性を身につけるよう実習施設と連携をとりながら指導し確実な看護実践能力の強化できるよう配置する。

▲ ディプロマポリシー（卒業像）

専門課程第一看護学科

- 1) 看護に必要な基礎的能力・倫理観を身につけ、行動することができる。
- 2) 生活者の状態を理解・判断し、必要な看護を実践できる。
- 3) 自己の看護観を培い、看護に反映・自己研鑽に励むことができる。
- 4) 地域・社会(国内外)の特徴を理解し、必要な看護活動について思考できる。
- 5) 保健・医療・福祉の連携と看護師の役割について理解し、身につけることができる。

専門課程第二看護学科

- 1) 地域で生活する対象の健康状態、場に応じた問題解決ができるための知識や技術を身につける。
- 2) 保健・医療・福祉チームの一員として、対象者や家族と協働し、多職種との連携をとりながら、看護の役割が果たせる基礎的能力を身につける。
- 3) 自己理解に努め、他者を尊重した上で人間関係を保ち、深めることができる。
- 4) 豊かな感性を育て、人間を幅広く理解することができる。
- 5) 社会(国内外)の動きに関心を持ち、継続的に自己学習ができる。

高等課程准看護科

- 1) 生命の尊重と人間の尊厳を守り、相手の立場に立って行動できる。
- 2) 人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する行動がとれる。
- 3) 看護を实践するうえで、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。
- 4) 保健・医療・福祉チームの中で、准看護師としての役割を考えて行動できる。
- 5) 社会情勢や医療の動向に関心を持ち、看護のニーズを考えることができる。
- 6) 主体的に学習し、看護を探究し続けることができる。